2018-09-27 GuoShuxian

<https://mainichi.jp/articles/20180927/ddm/005/070/099000c>

[**社説**](https://mainichi.jp/ch151021807i/%E7%A4%BE%E8%AA%AC)

**トランプ氏の国連演説　世界の失笑の意味考えよ**

毎日新聞2018年9月27日　東京朝刊

**米大統領の国連演説で議場に失笑が湧くのも珍しい。**

総会の一般討論演説でトランプ大統領は言った。「私の政権は２年足らずで、過去のほとんどの米政権より多くのことを成し遂げた」と。

　居並ぶ各国代表の間に薄笑いが広がる。トランプ氏は慌てたように「本当だ。そんな反応を示すとは思わなかったが、まあいい」。

　米国と他の国々の温度差を見せつける一幕だった。トランプ氏は「多くのこと」の例にイラン核合意からの離脱や在イスラエル米大使館のエルサレム移転を挙げたが、それらは国連の意向に沿うものではない。

　米国の対イラン制裁再発動が世界の石油価格上昇を呼び、庶民を苦しめていることも忘れてはならない。

　さらに驚いたのは、トランプ氏が「私たちはグローバリズムの思想を拒否し、愛国主義の精神を大事にする」と言い放ったことだ。

　国際協力の場である国連で、多国間協調の否定とも言える演説をした。トランプ政権の「米国第一」主義も国連軽視も以前からのものとはいえ、ここまで露骨に大統領が言い切ったことには憂慮を禁じえない。

　トランプ氏には１１月の中間選挙への思惑もあろう。だから好調な米経済を自慢し、支持基盤のキリスト教右派勢力が喜びそうな外交事例を強調したのだろう。国際情勢への目配りより国内選挙向けの演出ばかりが目立ったのは残念である。

　昨年の国連演説でトランプ氏は北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長を「ロケットマン」と呼び、情勢しだいでは北朝鮮を全面的に破壊するしかないと語った。

　今年は一転、６月の米朝首脳会談の成果を強調し、北朝鮮がミサイル発射や核実験を見合わせていることなどを踏まえて金委員長の「勇気」と一連の措置に感謝の意を表した。

　緊張緩和は喜びたいが、このひょう変ぶりに危うさを覚えるのも確かだ。トランプ政権の北朝鮮対応には場当たり的な色彩が強い。２回目の米朝首脳会談が開かれても非核化へ前進できるとは限るまい。

　「場当たり的」に加えて強引な通商交渉も米国の信用と品格をおとしめ、国際的にひんしゅくを買っていないか。世界の代表の失笑の意味をトランプ氏は謙虚に考えるべきだ。

<https://mainichi.jp/articles/20180920/ddm/005/070/085000c>

[**社説**](https://mainichi.jp/ch151021807i/%E7%A4%BE%E8%AA%AC)

**南北の平壌共同宣言　米朝停滞下での「つなぎ」**

毎日新聞2018年9月20日　東京朝刊

韓国の文在寅（ムンジェイン）大統領と北朝鮮の金正恩（キムジョンウン）朝鮮労働党委員長が３回目の会談を行い、「平壌共同宣言」を発表した。南北の首脳が頻繁に会談するのは信頼醸成に役立つだろう。ただし、肝心の核問題での成果は今後の米朝協議に持ち越された。

　共同宣言には、北朝鮮がミサイルエンジン実験場などを関係国の専門家の監視の下で永久廃棄すると明記された。北朝鮮が核実験場を爆破した際、専門家の査察を受け入れない不透明な措置と批判されたことが念頭にあったのだろう。

　国際社会の声に耳を傾けようとしたなら、一歩前進だ。トランプ米大統領は早速、合意を評価している。

　しかし、これで米朝協議が大きく進展すると考えるのは早計だろう。

　北朝鮮は核開発の中核である寧辺（ニョンビョン）の核施設に関しても永久廃棄を表明したが、米国が相応の措置を取ればという前提条件を付けた。まず米国が朝鮮戦争の終戦宣言に応じるべきだとの北朝鮮の従来の主張を反映したものだろう。米国は非核化措置を先行させる必要があるとの立場で、これでは平行線のままだ。

　核開発を進めて北東アジアの緊張を高めた側が行動対行動の原則を持ち出す論理に、韓国が理解を示したことにならないか、懸念が残る。

　そもそも北朝鮮の非核化は、個別の施設ではなく、関連するすべての核施設、核物質が対象だ。

　北朝鮮の非核化で大きな成果が望めない中、文大統領が今回平壌を訪れたのは、南北がお互いを必要とする事情があったからだろう。

　北朝鮮は、米中間の貿易摩擦のあおりを受け、最近では中国からの全面的な後押しを受けるのが難しくなっている。トランプ大統領が中国への不満を表明しているためだ。

　また、韓国では経済対策が不十分だとして世論の支持離れが起きており、南北関係の改善をテコに反転攻勢に出る思惑があったのだろう。

　今回の両首脳の親密ぶりは、過去２回の韓国大統領の平壌訪問と比べても突出している。きょうは、中朝国境沿いにある朝鮮半島最高峰の白頭山にそろって登るという。

　政治的な演出は、対話の雰囲気作りにはプラスかもしれない。重要なのは、核問題で実質的な進展に結びつけることだ。